

E
エッセイ
Essay.豊橋地区日中友好協会の簡単な
歴史と活動の一齣を紹介豊橋地区日本中国友好協会
名誉会長 伊藤 般展

豊橋地区日中友好協会の創設は古く1951年、東京に日本中国友好協会創設準備会が設置され、本間喜一愛知大学学長が理事に参画、設立に重要な使命を果たされた。東京に中央本部が創設されると学長は直ちに、大学の教職、学生や進歩的な市民などに呼び掛け、愛知大学内に「日本中国友好協会豊橋支部」を創設し、即運動を開始、以来60年に亘る地域の日中友好運動実践の歴史を書き綴ってきた。この間、中国は曾って経験の無い社会主義国家建設という紆余曲折の試練の困難があり、この克服には幾多の変革があったが、協会はこの変革に対応、判断に誤りを犯さず地域の日中友好情勢拡大の運動を推進してきた。ここに、四区分期の変遷を懐古する。

第一期の創設期は1955年を前後とし、当時は警察予備隊、自衛隊の設置時代であった。協会の活動が労組を主軸とする時代でもあったために、日中戦争の反省を含め米帝国主義反対、軍国主義復活反対など半ば政治的色彩の強い日中友好運動の始まりの時代であった。

第二期は1964年の日中貿易拡大会議による第三次L・T貿易調印により、中日友好協会の孫平化先生が主席代表として着任され、日中間の経済交流の窓口が開かれた時代である。そして、国交回復以前から豊橋市の小中学校児童の書画作品を、中日友好協会弁公室に送り続け、日本初の民間友好事業と評価された。

第三期は、日本全体的に日中国交回復、平和友好条約締結の希望的雰囲気が高まり始めた時代であり、協会はこの実現に向け地域の友好情勢拡大運動として、日本政府に対し早期実現の請願署名活動を展開し衆議院議長に陳情し、中国に豊橋日中友好協会の存在が認められた。

第四期は、1972年の国交回復に続き平和友好条約締結期であった。特に平和条約が締結され1978年12月南京市と名古屋市の友好都市が締結。市民の中国への関心を深めさせた。以後当協会は名古屋市が招請した芸術団の豊橋公演を行い、小中学校の児童との交流を推進した。更に、上海港籍の船舶が次々と豊橋港に入港し、協会はその都度豊橋港に歓迎訪問し、船長、船員との交歓交流など、「中国を知り知らせる」活動の強化を図った。また、豊橋少年少女合唱団の二回に亘る中国派遣公演は絶賛され、今尚、参加団員たちは「感激と感動の記憶の消え去ることはな

い」と話されている。

1984年に豊橋商工会議所の中国経済視察団が南京市訪問の際に随行し、江蘇省人民政府より豊橋市と南通市との友好都市提携の仲介依頼を受けた。これにより本市に南通市を広く知らせようと、帰国後も南通市を幾度も訪問し、地方紙に状況報告掲載の協力を得、大きな反響を呼んだ。尚、南通市友好都市提携実現に向け、市民の友好情勢高揚のために革新系の豊橋支部を改編し、全市民参加の「豊橋地区日本中国友好協会」に改めた。記憶を辿ると順不同の様々な友好活動が走馬灯の如く駆巡るが、特に想い深いのは、南通市政府から渡された南通市紹介の一冊子の翻訳を完成し出版すると、全国から南通市についての問合せをいただき、多くの日本企業の南通市進出にお役に立てたことを喜びとしている。しかし、中国の民衆の対日感情には若干の盤根錯節があるが、今後相互国民の努力によってこれを希釈していかなければならない。



佐原市長も参加してのお花見会(昨年の様子)

当協会の二十数年に亘る恒例の、地域に学ぶ留学生とのふれ合いの場としての「花見の会」や「ギョーザをつくる会」に参加下さった留学生諸君が帰国後、地域市民の友好感情を伝えてくれることを望み、この小さな事業が国家レベルの戦略の日中相互関係発展の一滴になることに期待を寄せ長年実施をしている。当協会は、日中関係が新たな国際社会形成のリーダー的役割を果たすために、今後の友好事業活動を次世代の友好人土育成を柱とし、経済・文化発展に微力を尽くす組織でありたいと願っている。